



濱田政則 HAMADA Masanori

土木学会 第94代会長

明けましておめでとうございます。

会員の皆様にとって今年がよき年でありますように、心よりお祈り申し上げます。

昨年をふりかえれば、自治体を中心とした一連の談合事件による土木事業への厳しい批判や、公共事業費の長期的減少、極端な低価格入札による建設市場の混乱が続きました。

このような土木を取りまく状況を克服して、土木界の新しい展望を拓げていくことは、産業界、学界、官界の広い分野からの土木技術者より構成される土木学会の最も重要な役割であります。そのための第一歩は土木技術者や土木事業に対する社会からの信頼を回復することにあると考えております。土木界からは常に「安全・安心で健康的な社会の建設や国力・国際競争力の維持向上のために

は社会基盤の整備が必要不可欠である」との主張が繰返しなされてきていますが、社会との信頼関係が構築されていないため、国民からの合意を形成することは難しい状況になっています。

土木学会は、最近自然災害の被災地の復旧・復興に対する技術支援や学生会員を主体とした防災教育活動を国内外で行ってきております。また、従来から、各支部では出前授業や一般市民を対象とした見学会を行ってきております。学会として本年もこのような活動をさらに積極的に展開する所存です。土木技術者として市民の中に入って、市民とともに活動することが土木に対する社会の信頼の回復につながると考えております。

一方、入札制度の改善や土木工事の品質向

上のための各種制度の改正および土木技術者の資質向上など、土木界の諸課題に関して具体的な提言や方策を社会に示していくことも土木学会の主要な役割です。これまでも、これらの課題解決のための提言をまとめ、学会内外に発信してきておりますが、関係機関との協力をより緊密にして、実際の政策や施策に反映されるよう活動を展開していく予定であります。市民の目線に立った活動、いわば草の根的活動と、活発な政策提言などが、車の両輪となって「土木事業や土木技術者への社会の信頼が回復」されるものと考えます。

昨年、会長特別委員会「土木の未来・土木技術者の役割」において土木学会や土木技術者がこれから果たすべき役割についてのアンケートを行いました。500名を超える会員

から貴重なご意見が多数寄せられました。本年も土木界が目指す方向性や土木学会の活動のあり方について、会員の皆様からの積極的なご意見を学会ホームページなどを通じていただきたいと思います。

土木界を取りまく現在の厳しい状況を克服するため、土木学会は主導的な役割を果たさなければなりません。本年は土木学会の日頃からの主張を具体的な行動と実践に結びつけていきたいと考えています。「行動する土木学会」のために、会員の皆様方のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。